

屋久島生態系モニタリング

屋久島北部の植生垂直分布調査(平成 22 年度)

●標高 600 標プロット

シアンヌタ谷上流沢沿いの広葉樹二次林。胸高直径1mを超えるような大径木はなく、最も太いものでもヤマザクラ(65cm)とヤクシマオナガカエデ(54cm)。局所地形は複合斜面で北北西方向、標高575~585m範囲。[高木層]エゴノキ・ホソバタブ・イスノキ・バリバリノキ・ヤマザクラが多く、ヤブニッケイ・イヌガシ・ヤクシマオナガカエデが混生。個体数は少ないがヒメシヤラ・ヤブツバキ・サザンカなども生育。エゴノキの高木にはツタ・イタビカズラが樹冠近くまで巻き付いている個体あり。5年前亜高木層だったエゴノキの数が高木層になり、かつての優占種であったホソバタブを凌ぐ。[亜高木層]ホソバタブ・ヤマザクラが多く、イスノキ・バリバリノキ・イヌガシ・サカキ・サクラツツジなどが混生。5年前は樹高4~5mのサクラツツジが多かったが、それらの一部が被圧により枯死し、立ち枯れ木もあり。5年前と比較し、ヤマザクラの生長が旺盛。[低木層]サクラツツジ・イスノキの幼樹や、サザンカ・ヒサカキ・サカキ・シキミが生育。個体数は少ないがツゲモチ・イヌガヤ・タイミンタチバナも出現。[草本層]植被率は低いサザンカ・ヒサカキやイヌガシの稚樹、ヒメタビ・アルドオン・ヤクカナワラビが生育。[特徴]ホソバタブーイスノキ群集。高木層や亜高木層にエゴノキ・カラスザンショウ・ヤクシマオナガカエデ・ヤマザクラ等の落葉広葉樹やホソバタブ・イヌガシ・バリバリノキ等のクスノキ科の照葉樹が生育していることから、遷移過程の二次林であると考えられる。低木・草本層にはイスノキが多く、落葉広葉樹の稚樹は被圧とヤクシカの被害等により非常に少ない。[5年前との比較]落葉広葉樹の生育が旺盛で、高木層のエゴノキ、亜高木層のヤマザクラの旺盛な生育が目立つ。低木・草本層は5年前から少なかったが、ヤクシカの嗜好種であるイスノキやアルドオン等がかなり目立ってきた。



葉の付き方を説明する小薄専門官

屋久島森林生態系保全センターでは1月26日、森林教室「冬の森林の楽しみ方」を行いました。これは、屋久島環境文化研修センターからの依頼を受け、屋久島ガイドセミナー(1月24~26日)の一環として行ったものです。12人の参加者は

屋久島ガイドセミナー 冬の森林の楽しみ方

ガイド経験年数や主な活動場所が山、海と異なることから、今回は、屋久島の樹木や森林の特徴を再認識していただくことに主眼をおき、併せて当センターの業務内容についても紹介しました。午前中は、白谷雲水峡にて、冬芽や枝の付き方を観察しました。

①冬の森林は落葉樹が葉を落とし殺風景に見えますが、枝先には春の芽吹きを待つ冬芽が生じています。冬芽は樹木によつてさまざまな姿、形をしており、この特徴を観察することも冬の森林散策のおもしろさです。

②落葉樹の枝の付き方は落葉した冬によく観察でき、その特徴で樹種を判別することができます。例えばカエデの葉や枝は対生で二股で分枝します。屋久島にあるカエデ科の樹木は標高の高いところにあるコハウチワカエデ、ウリハダカエデと標高の低いところにあるヤクシマオナガカエデの3種類で、ウリハダカエデの樹皮は名前のおり瓜の皮に似ています。

また、枝は節から発生し、節と節の間の節間が1年間

屋久島の植物



コショウノキ
(ジンチョウゲ科)

本州以南に分布する常緑小低木。山地の林床に生育。ジンチョウゲに似た白く芳香のある花を枝先に数個ずつつける。果実は初夏に赤く熟す。一説によると果実が辛いので「胡椒の木」とついたが、この仲間には有毒のものが多くあるので試さない方がよい。花期は2~3月。

に1節間伸びる樹木は節間数を数えることでおおよその樹齢を推定できます。分かりやすいのはマツの仲間です。節から枝が発生していることを意識すると、樹種ごとの分枝の特徴を掴むことができます

午後からは、プロジェクトを用いて当センターの業務を紹介しました。また、屋久島の山歩きの注意点として、白谷雲水峡を例に、集



説明する猪島生態系管理指導官

九州間伐紙 普及促進重点月間

「国民が支える森林づくり運動」推進協議会は、間伐材を利用した「木になる紙」シリーズを開発・供給し、その普及に取り組んでいます。

「木になる紙」を利用することにより、間伐材の利用促進や還元金による山元の支援を通じて、林業・山村の活性化や地球温暖化防止に貢献することができま

平成26年度「国有林モニター」の募集について（お知らせ）

林野庁九州森林管理局では、より多くの国民の皆様身近な存在として国有林を感じていただけるよう、国有林の役割や現状といった情報をお知らせするとともに、国有林をより「国民の森林」として管理経営していくため、森林・林業や国有林に興味を持たれる一般の方々から御意見をいただく「国有林モニター」制度を実施しています。

この度、平成26年度「国有林モニター」を下記の通り募集いたしますので、多くの皆様からのご応募をお待ちしています。

記

【募集人数】 60名程度

【依頼期間】 平成26年4月～平成27年3月（1年間）

【依頼内容】

- ・ 森林・林業、国有林に関するアンケートへの回答
- ・ 森林・林業、国有林に関する御意見や御提言などの報告、弊局広報紙への投稿
- ・ 国有林モニター会議への出席（年1～2回程度、希望者のみ）

※ 提出いただいた回答、ご意見などについては、全体を整理した上で、後日九州森林管理局ホームページにおいて、主要な意見などを匿名にて公表することがあります。

【応募資格】

九州・沖縄8県にお住まいの20歳以上（平成26年4月1日現在）の方で、森林・林業および国有林に関心を有する方。（ただし、国会及び地方議会の議員、地方公共団体の長及び国家公務員は除きます。）

【応募方法】

官製ハガキ又は封書に必要事項を記入の上、以下の宛先まで御応募ください。また、メール及びファックスでも受け付けております。御不明な点につきましては、御遠慮なくお問い合わせ下さい。

〒860-0081

熊本市西区京町本丁2番7号

九州森林管理局 企画調整課 国有林モニター担当

TEL : 096-328-3511 FAX : 096-328-3643

E-mail : ky_kikaku@rinya.maff.go.jp

【必須事項】

- ・ 氏名（ふりがな）、性別、生年月日、年齢、職業、住所、郵便番号、電話番号、メールアドレス（ございましたら）
- ・ 国有林モニターを知ったきっかけ（具体的に記入）
- ・ 国有林モニターに応募された理由（100字程度）

※ ご応募いただいた個人情報は、個人情報の保護に関する法律に従い、適正に取り扱います。なお、一度送付いただいた申込書はお返ししませんので、あらかじめご了承ください。

【募集期限】

平成26年2月28日（金）（当日消印有効）

【発 表】

- ・ 選考結果は、平成26年3月下旬頃、依頼状の発送をもってお知らせいたします。
- ・ 応募状況によっては抽選による選考をさせていただきます。選考結果に対する個別のお問い合わせにはお答えできませんので、あらかじめ御了承下さい。

【そ の 他】

- ・ 国有林モニターになっていただいた方には、弊局の広報誌などを定期的にお送りします。また、モニターの活動に対して記念品をお贈りします。
- ・ 国有林モニターとして個人的に提出いただいた御要望等に関しては、個別にお答えすることはできませんので御了承下さい。
- ・ 国有林モニターはより多くの国民の皆様身近な存在として国有林を感じていただけるよう、国有林の役割や現状といった情報を提供し、併せて御意見等をいただくものですので、既に国有林についてご存じの方（例：国有林OB、業界関係者、森林林業担当の自治体職員、国有林に陳情等の活動を行われた方等）におかれましては、お断りさせていただく場合があります。

問い合わせ先
九州森林管理局 企画調整課
国有林モニター担当：嘉門、久保
TEL : 096-328-3511
FAX : 096-328-3643